

This copy has been provided by the UBC Archives [or UBC Rare Books and Special Collections] and is to be used solely for research or private study.

XLVII

JAFANESE-CANADIAN  
COLLECTION

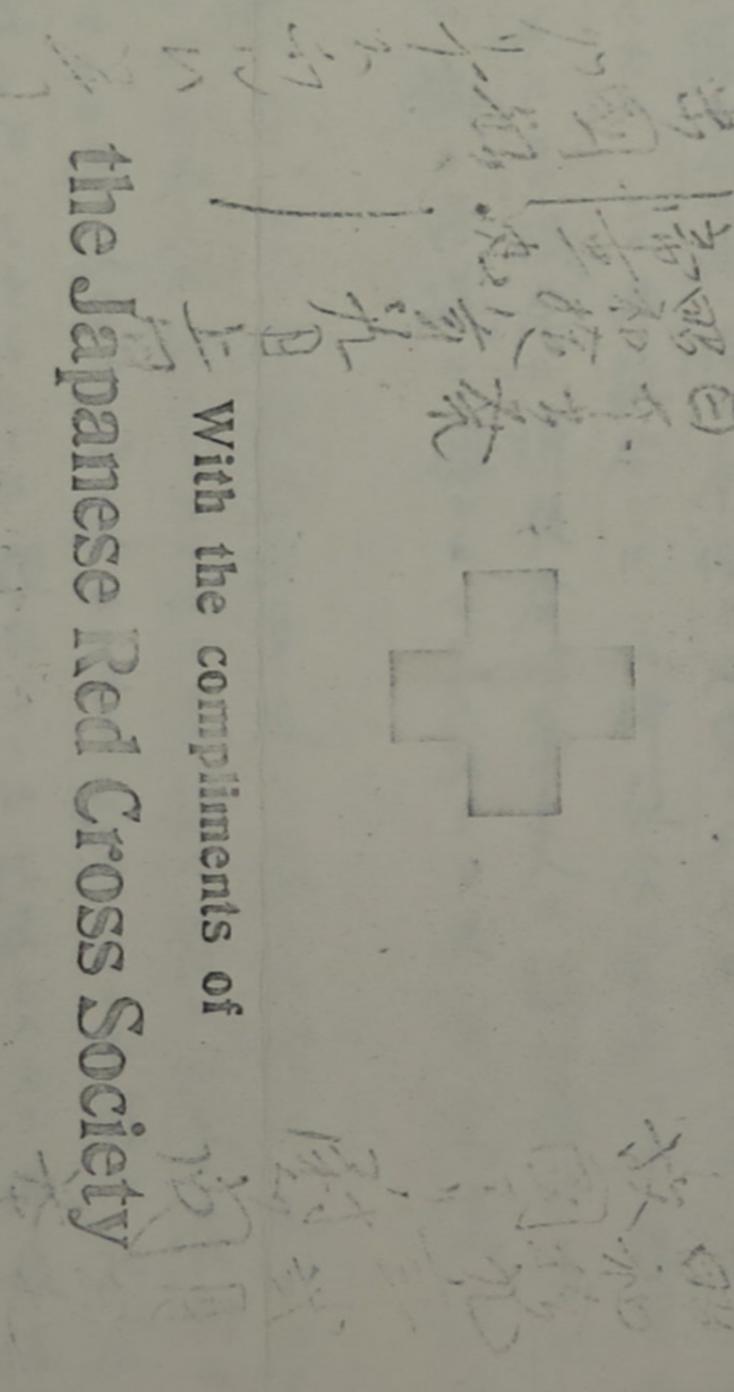
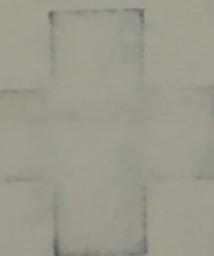
TAWZIA

ORIGINAL ORDER  
PLEASE RETAIN

17-1  
REF. NO.

Exchanging picture  
wartime.

KUNI TERUKO Aug 1948  
sent to Canada



With the compliments of

the Japanese Red Cross Society

Courtesy of Mr. K. THARA,  
2503 W. Broadway,  
Vancouver 7, B.C.

## スティーブンソン佛教会史

一九六七年一月 稿完

多ステファンは現地力士若狭に在留してゐる日本人ニ萬有餘り  
祭神の他として海外普く知られる。今日不アノトレンに在住して  
ゐる日本人は立派な家庭に住居し平和に生業に勵んでゐる  
ことは立派な東洋式建築の家々が建立され佛教信徒は  
祖先傳来の傳説を奉信し心身共にひつたゞとした苦痛さを  
見えてゐる。ニラ佛教会ではニラ佛教会堂建築祝賀慶讚法  
要と共にニラ教會に佛教会堂草支の編修本に乞かることを  
有大誠り時機に適したのであるし又有意義感をここである

今茲にステファン佛教会沿革史を纏まつて先にステファンの  
起因即ち日本人が初めてニラ地に足跡を留め以來最初の佛教会が  
創立され佛教会堂が建立されたもの當時の社會日本人の  
情況を知つておくことは現在ニラに住居してゐる佛教信徒ばかり  
でなくかゝりに住する日本人にとって大事なことであると思ふ  
余の祖父先輩が遠く大洋を越えて吉野ヶ原總て黒崎  
安藤ニラカイタナ土地に根を下し歐新嘗胆幾日生想今日花を  
咲と實をならしめ吾々の時代を招来させて永くニラ文庫をはつき  
リと掌握してもらふことがこの沿革史編纂の大目的であら  
底うれしいを惜せば傳かんことを思ふ

ステファンの起因(須知武士通譲者著慈善團體三百年史)  
一八七七年経つ坡ニラアラスウタウ生れマーラ、ステーバスと云ふ人が  
移動して来て、ニラルールアーランドが自命教師によく似ていて懷か  
思がれた、そこで家つゝ四百英坪の土地を買、水めミニク飼ひを  
始めた翌年には妻と子供六人を呼んで永住の居をかまえた

長島ハーバート（ミオ）の希望でステーブス・タウンの名をステーブストンに  
した二の名が現れのステーブストンと稱せられた。当時ハーバート  
田舎の一帯にすこ下大森林は櫛状蓑衣と表して、晴天の観を呈して  
あれステーブストン又リキモント第二第三道路でスバルスシーダー<sup>スバルスシーダー</sup>  
ヘロワウの密林と有る。カナダ

先帝嘗て遣かず同ヨ考ルルハシカ その様や歎の人達に仰て 談り承  
て來た事で明確な事を握ることが叶々なか 一八八一年(明治四年)  
頃 間根と云ふ人があつたと云ふ(小田原三郎謨) 小田原三郎は一八八六年  
に渡りて以來 横尾義豊(國作)の團体長又は幹部に就任し  
元老と呼ぶべき大桐一八八五年 鈴木龍平、早川重吉(通稱銀賀重)  
北条和助(通稱相生さん)がその夏 譲捕りをしたと云ふ(横尾義豊)  
國体三五年史有賀千代吉(通稱眞暮) 又當時の圓行元老の説では  
今年新潟県人サキ 龍平と云ふシーラスコット(オットセイ捕獲組)に  
来てニ付押上陸したと云ふ 鈴木も秋も共に名は龍平であるから  
同一人であるかも知れぬ

六八事（明治三十一年）一躍一五〇人を數へるに至つたが之れ七ニ、に  
足往いたと云ふのでなく、鮑漁中傷等又他地方に轉出してゐる。  
今箕輪は現れアカリカ村として有石に在り大和歌山県三度市  
工野儀哥衛が横濱港より貨物船に乗てパンジー号に上陸  
屋をステラストンにかまえ鮑漁業に從事した。彼は鮑漁業の  
有能者と目せられ以テ親類友人を日本より呼寄て大々に  
アカリ鮑漁の開拓に先鞭を行つたので、アメリカ村の海外進出の  
起因を作りしたのである。

難物アリハ  
謂ベシル  
皆キリスト  
人也此ヒ割  
物から其ヒ而  
元來ヒニ  
医業幕  
アラニ力不



ニコニコは第二次獄年終結して力ア知らず零の大國として立つた。倉庫台  
に上り及んでこの罪人道の惡路を駆りて徹底してかまか こうした

差別待遇の法律國の中より排斥は又惡徳手のふにならやめた

人間の最も尊い信仰へとこゝへ排斥中やまじめ小へ甚しくせた

彼等の大多数は故國との佛教信者であり荒阪越えて坂小一夜に

身を下す渢りする身としてはそつ信仰心は人一倍強烈なのが

あつた為然であつたが、遂に如き白人國に在り日々排斥せん人を

と之で太ふうに佛教會堂を建立しようとするまで勇氣を 始めに豪

胆に震えず者達より當時こゝには敵方存かず

### 排斥調査中に佛教の身生え

一九〇七年（明治四十年）十月武藤勝喜助（福島県人）市野山三郎

（三重県人）の兩人が相計り京都津田佛具店より佛壇を購入し

東京知事室モントン街 第二街 東南角の草屋の二階一室

を借り佛壇を安置し佛教俱樂部と名稱し通称阿弥陀さん

ニミ中野御所阿田不傳和早信者相寄り集そお經と習ひて

内た大正ノ花式ある時は佛壇を背負ひて行ふお經と仰て

皆ての佛壇を持ち歩いたりする日主人排斥されたりと

言ふれ可なりの迫害をうけた或る時は佛壇を足跡にさへこじて

信者加賀を集つて來て報恩説教を持ち回りに勧め佛教部も

狹隘を感ずる程ならず排斥が盛んな中にあっても佛の

尊光をしれり開講授業の跡味を吸もうとした遂にハシマー

は佛教會堂あり同教師も派遣されぬので或る處は花式

争志満喫には自らバレンバーに行きお詣りし又は開教師を

自定に於  
中環船  
門口不當  
万場一  
葛原某  
時此大工  
大間題が  
今佛教人

ここに於  
スラムト  
の總  
二年間

オタク改  
而遣相  
を皮印

して日本  
して日本  
て日本

1 倉庫台

自民に招いておつめをした（市野十三郎 俊福守）

した  
てやあ、太  
中塙敏翁不<sup>ト</sup>寧（柳田樂人） 山下興作（鹿児島県人） 吉田復也（岩手県人）

せた

阿田不<sup>ト</sup>寧松（徳松翁） 墓主名譽起人と稱す 青年会館に詣て

小一枚

信徒大會を開いて傳教会室建築費の趣旨を一般化国民に講り

盛んに  
行な豪

萬場一致で決議され 納款伊恩セナ<sup>ス</sup>に合意するに至るが、木場清次郎を

芦原集にとりかゝり 当時オレヤンホールズ在住の棟梁木場清次郎を

呼び 大工阿田不<sup>ト</sup>寧松と一緒に建築費にとりかゝらせた

然るにニ、ト

野山三郎

大間野加敷翁當時山本次郎松毛團体長とする 澳系團体から

今仲敦会堂建築するに

日本<sup>ト</sup>人漢方排<sup>ハ</sup>外大に譲り

を講入し

一階一室

の總<sup>ト</sup>は問題はニヤ處程され

孫陀さん

二年間日本ビレッジ沿岸日本人漢方に対する排斥が一段と高まる

と想て

アーチ

ラウダと

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

ハ

人間に付いて餘りトモ遇酷な取扱ひをする事アリ。ニツ様云  
状態ハニ四國か北海道系漢石川支に四月十二日ニ至リ（一九二三年四月）  
從來必要では有が事ハトナリト同様のチセレスか必要なる方々等表  
ハ立リニタヨリ諒てどう問題ヒニシテミタチーンテアル。ハースセンルは

日本漢石川便傭を起止する旨奪衣されんつてアリ。ハスセンルは

全滅

付する方策は専々是メアル（口件三十五年又中古）

當時陳其事を以テ生活すヨ日本漢石川の夏豪ウツ愁憤はそり極ム

達し各家庭ト詮ニテ子供に至るニテ陳悔意氣持モカシナスニ

至つルモトヨリ漢石川大多數モコソテ形成シカガ及ベシケーハモクヘ

とした日本人社會の恐慌時代ニシテは小失失均なり諸失トカシ

主張事加追甲キルモト失体トアリ。斯くては童シテ死モカクシカニハ

漢石川協議會が決成し決然として立手ニテ漢石川同號ル

本決モハシニシテ是た譯アリ。漢石川代表は撤社幾回

全智モ終つて建策したカ總ては水泡ヒ帰してしまハ

即ニ一九二四年五月ニテ年セ引喰ルノ一割五分のチセレス削減を

定めんとテうけ算出ルモナシカ大漢石川連絡協議會を中心とす

る右漢石川は主事等ヲ離ルゆく際名ニ付生ヨ。教導科原モ

モシカヨシ一方資金の籌集ト努した為時、代表者モ役員モ

勤メハ實際死次吉ア諸共の明言實景モナシヤアリ。ニシテ

面口立リ代表者（开出律院連圓）宇野伸太郎（陳漢組合側）

ヲオタワ陳情モ効能モ認メ遂に問題モ法庭ニ持出す

ミヒニ洪吉一帯モ將護士の手に安ロニ有リ事ニ有リ大

平！シヨリオシ

イニウカムニ二人の病護士かオタワ大醫院ニ於テ將護モ開始

シテ一九二八年二月十日であつたニ武訓ハ「欲漢石川連

人間に付いて餘りトモ遇酷な取扱ひをする事アリ。ニツ様云  
状態ハニ四國か北海道系漢石川支に四月十二日ニ至リ（一九二三年四月）  
從來必要では有が事ハトナリト同様のチセレスか必要なる方々等表  
ハ立リニタヨリ諒てどう問題ヒニシテミタチーンテアル。ハースセンルは

日本漢石川便傭を起止する旨奪衣されんつてアリ。ハスセンルは

全滅

付する方策は専々是メアル（口件三十五年又中古）

當時陳其事を以テ生活すヨ日本漢石川の夏豪ウツ愁憤はそり極ム

達し各家庭ト詮ニテ子供に至るニテ陳悔意氣持モカシナスニ

至つルモトヨリ漢石川大多數モコソテ形成シカガ及ベシケーハモクヘ

とした日本人社會の恐慌時代ニシテは小失失均なり諸失トカシ

主張事加追甲キルモト失体トアリ。斯くては童シテ死モカクシカニハ

漢石川協議會が決成し決然として立手ニテ漢石川同號ル

本決モハシニシテ是た譯アリ。漢石川代表は撤社幾回

全智モ終つて建策したカ總ては水泡ヒ帰してしまハ

即ニ一九二四年五月ニテ年セ引喰ルノ一割五分のチセレス削減を

定めんとテうけ算出ルモナシカ大漢石川連絡協議會を中心とす

る右漢石川は主事等ヲ離ルゆく際名ニ付生ヨ。教導科原モ

モシカヨシ一方資金の籌集ト努した為時、代表者モ役員モ

勤メハ實際死次吉ア諸共の明言實景モナシヤアリ。ニシテ

面口立リ代表者（开出律院連圓）宇野伸太郎（陳漢組合側）

ヲオタワ陳情モ効能モ認メ遂に問題モ法庭ニ持出す

人間如是  
當教科原  
之處は諸  
之佛の如  
漢石川連

英國區  
はモハレと  
樞密院  
立入つれのイ  
カドリ大審  
ハ憲十九  
ダラテ莫テ  
で倉めば  
肇第三ル  
連ハ戸加用  
少林真波川  
四百三十天  
併設会設  
レルセバ若

ル通じル計

少治齊

今日もつた

連常事

ハルハル



極めてする團体後援代表者としては 会堂建築 今そり  
時機にあらず、許のできをとおひ切つたこと、生を抜ぶにする  
人間本能の当然の要求である。

### 愈々 ステファン・佛教会堂建築成

ニシーベル沿岸日本陳情の懇意様は、代に当てステファン・佛教会堂  
を建てようとしたが、前述の如くして一時中止された。裁判進行中  
は日本不セレスの削減が諸般の施行できなかつたことと、英國  
植民院の見直しと日本陳情に有利に立てるもので、佛教  
信徒は一九二七年春、佛教會堂建築を愈々聖堂建築に  
賛同した者たちは名乗、上手協議を重ねた先手八方に  
手取りして甚金募集を始め、工費予算八千美元を立て  
造営が始められた。そして会堂並に青年会館が建てられ、  
一九二八年春と見てから、その後青年会館が改築され二階  
を同牧師信徒となし、その他に平屋建佛教會附屬ホルンが  
隣接してある。茲に佛教信徒として永年の款注があり大  
きなアパートの中央部、町の南側、フレーカーの本流がゆくと  
ジタウジヤ湾に近く、一望に眺められる景勝の土地である。  
こうした印象の時代に斯くも堪へ苦勞してきた者たる衆が  
在住信徒の氣持を思ふ時、会堂落成の喜びやいかばかりで  
ある。しかし、こうした喜びの中、礼拝を高めておこなは  
今堂建築が中止され、五分頂から總支和力に轉じて勵して  
くれて方丈多賀義仁師並に上而寔之助丈人シゲ子  
が承諾、多賀師は建築費資金として五十萬の高附を出し  
皆を感激せしめたところ、それが三年にして竣工が現れて  
きたりである。

8.

今モテ  
ステガストン佛教会建築が日出江く 設エされル

### 佛教会並に附屬團体の組織

#### 寺作同教師赴任

「佛教會の設立されたのが一九二八年九月十四日とする（北東同教沿革史）」

「教會堂

が創立以來の記録は未だ甚安賛章中移動ル依テ喪失され  
現化以降は合計目次一冊しか残されてない。その為に不代役員事務

英國

佛教

算に

八方に

牛を以て

えれ。

佛

算に

八方に

牛を以て

山本平之郎と之の景の人事が会長に不仕合と方引か。そり順列は  
ほつきりわからぬ。(今後二期の役員が二つ記事を讀んで刊行と  
知れる人があれら休記前記ふとしてもうか)

柳文  
原部力  
獲得  
として世日

主利開設使法務をとろくには会員熟は重在位となり。佛事協要  
水飛雖以伸ひてきてる。又附屬同併としては一九二八年より高橋  
として生れ大婦人の集は一九三二年には佛教婦人会と改稱。今会員  
一三〇名。日曜学校を開設し佛教會と力を合せて運営にあることに至つ  
たつてたまち坐待三天の名に達し教師八名に依り、講演研究、辨論  
佛教者年会は一九三二年一月開会式を畢び、佛典研究、辨論  
運動文藝、消防、部門をもち会員大約当時は少くスラブストン  
に大火起りたゞき消防、設備が完全不なかつて大難あり度に  
者年下が決起して大に佛道を勧め、功績が大きく認められん、又慈光  
下に正義を叫ぶ自らを淨化し高い志く社會に及さんとする勇往  
青年年辨論は當時日本人社會の花とて異彩を放ち盛り盛大  
者そのとおり現れ当佛教會又は東都ヤマトの佛教會の中堅  
僧は二時代に於てスラブストン佛教會青年部門にて修業された  
人達である佛教會の幹としてゐる所である。

二、  
の信念  
要求  
二、  
の趣旨  
ノル神社  
はたゞハ  
して時代  
カノヨリ系

二、  
當時の件者がどうの小理想趣旨以下に集い修業を重ねてき来たか  
被國忠曉鐘者年会十週年記念号を抜稿してその全貌を  
眺め初代役員、十年後の役員並び次代会長斎藤長(会長改め新  
事長ヒヨウ)の氏名を列記して見き意既ありと、思ふ。

二、  
ノル神社  
はたゞハ  
して時代  
カノヨリ系

須知佛教者年会趣意書(創立)  
の佛教會年会設立の趣意は須林在住青年活動の精神修業  
仁賞し自覺を發揮するを基礎とす。吾等日本市民

二、  
ノル神社  
はたゞハ  
して時代  
カノヨリ系

ノ  
ノ  
ノ  
ノ

として筆号は彦三

ソシテイは世界に誇るベニ宋教の信念に依る偉大なる信仰の力を  
獲得するにあらず

指を文明の体は肉瘤である。左翼は必ずしも左翼の事務局で、原動力である信仰なくして人間生存界に何の價值あるん  
か。人生凡ての行動は何の場合に於て三年宗教的信念

依て達成せらる。斯るが故に吾々青年加穂丸、右相馬直而して你院の教示賜り、大曾限の慈悲を味得し、安んじ命

大いに詮釋すべしであつた

八  
御論

度上

卷之三

前川源藏  
大

辰  
大

重刊本

卷之三

相神修尼

卷之三

ニシテ立傳で商拠作とうれきアリハ肯じて享リ時代の除ルをモト  
と叶ルイカヌカムアヨ誠ニ青年のある連中アリ。尚ニテ際ニミリ  
辨論を同小。

ルル島々一角ニテ金加青年旅館人会  
第一回スル佛寺代表 大國正二

現下の世相を推しニ見リ時、正しく天來の雷鳴アリ、同時に肺肝  
を震く一語ではなレシテ（度多暦は急レ）歎仰大哉が猛烈を歎羨申  
セ申日ナ入事委申カアル

又吾輩の  
勇敢無  
又水消  
或ル九満  
同レ想  
渴淵少レ  
事レ  
拓に進ま  
墨が青山  
高日峰  
香東吾  
史加雄  
第一五  
大到ソレ  
鳥はシヒ  
大和の精英  
されど龍衣  
重荷を負  
知らぬ故  
鳥呼ニシ  
大和の精英  
されど龍衣  
重荷を負  
行く時、  
声ドニテ  
六木ヒテ

諸君一往ト遠想す勿れ。吾等青年へ活躍新台ノ今猶若  
にして而後彼ヲ舊島帝國ヲ祀に奉セテ、嘆ハ吾等日盲ウシ「不材アリ」  
ハシナリベシトアリビンケアリ「カナダ大陸なり」と聲を大にして諸君ニ  
訴ヘラ居ヤアリス。広大なる土地北不大陸、莫度に多々嘆ム  
無限寶庫か吾等同齊を待テ居ヨハナレシカ

大陸を南北に走る雄大な自然の表現自雪ノ眼ヲ北ロツキ一其の火  
種差別を知ラズ。而漠然土肥東部平原は其有色の別なく  
遙か而天の空を凝視して、開拓の一歛を一日千秋の思ひで期待し  
熱望しておます。行リ大陸を目指してリ。故ヘ吾等の盲目ナレシ御土  
産す。祖国の島にリ。吾等は最微まで一歩も退く勿ル。

大和の精英  
されど龍衣  
重荷を負  
行く時、  
声ドニテ  
六木ヒテ

而して更に初日先年日本を訪れた際、我が御屋串本院ハ厚ん大  
南洋アララ海を指して進む僅か三色足らずの帆船を以て  
遠洋漁業ルハヒ御屋熊野男子の意氣を見よとはカリに  
和うかな看風トナリシ日章旗を眺め、唯感激ドキナル萬歳  
胸に満ち、されど喜れ、然野郎、御心、者ル非ラズ又能野

健  
男子ムランとする旨ルもあらゆど、其の進取の氣象の精神也

れをまどひ  
ニミツ

又無事の得る所である。恩へし若き青年戰士よ！吾が御宣  
命敢熊野に非すと其の血を享けべば若者ありと聞く。

又水清き紅葉芭蘭の畔りに同じ精神の血を享けた若者ありと聞く

或は九洲の一角も旅立つて同じ精神に心を向けてす若者あると

同様（註出身果は同じさう不思若人の心は皆同じとお小こ）

ト肺肝

戰羊中 潤（潤）（註此身果は同じさう不思若人の心は皆同じとお小こ）

河畔に集ふとか若者あるなし澤より新天地の開

拓に進まではありますか、世人曰く人間至る所青山ありと

愚が青山は北加大陸はそぞろ世界に花りとすか氣宇の光は生きた

か合獨客

シスカアリ

シスカアリ

若君に 芳明（とく）小川（かわ）あります

古系吾が國氏は如何に海外參展は勿敏也あいかは三千軍のス

史か雄辯以物語えます（と例を二つて論りありやして）又吾等

第一志士の音 青雲の志を抱きて天下渾淵の荒波を乘じて今日

は其の人 の別（ちく）

大約（だく）之を追取勇敢の氣象を持つ其の手（て）はいか一

不到（ふとう）レモ之を追取勇敢の氣象を持つ其の手（て）はいか一

身（み）は（め）とへやかに朽（く）ることを遙（とほ）かに

期待（とき）し

鳥呼（とり）魂（たま）リ（タマ）羅神（らじん）ありニモ

吾等（われら）何若（なに）ぞ折（く）勝（かつ）いた

かと龍衣（りゆうい）來（く）る有（う）池（いけ）人（ひと）裡（り）有（う）加（く）故（の）厭（いや）迫（せ）

博（ひろ）かへ人（ひと）通（とお）り以（よ）て

か（か）りに 入（い）れ高（たか）成（なる）

精神（じんぱい）

して先の故を誤りて釋尊の声か? 嘴唾あつ声か水化の日本を生む  
現れの大和健兒を生んだ。か? 初ども吾は四千哩の遠い異國に  
其の身を極めへるに祈り竜山黒潮に棄てて若き魂を更生  
に導こうとする。精神は吾の胸から下り大河の流れと同じく、  
幾千年的古より幾万年の未承す也凡そ人類あらん限りその魂を  
救はずかぬかぬをあらう。

此精神こそ親鸞聖人の声か? 蓮如上人の声か? 、  
おと日中精神と共に流れて止まぬ人乗佛教こそその精神でなくて  
何ぞか叫ばねばならぬのであります。

さうして明日の遠洋に新し意氣と希望を以て吾が蓮村の續き黒  
潮と共に生る今こそ黑潮が叶ひ運び通進の若闇とす日本精神  
は無名の漢民の胸に脈々と血りゆるを眞中よりてかります。

諸君よ! 見よ前として流れ行くフレーク大河の姿を共  
に以島の一角! 歓喜こぢり一小島に朝の方には目覺めタベニ  
はニテ声に眠りつゝ吾輩生命録シタセヤリ黒潮に立ちて安まる仰土  
の為に將み祖国の島に立つ能く壯年青年吾輩!!

ヨーロッパの河か湯らども今より在の紫光はアリ下共情く正しく  
前より時 改暦の環れ日色玄飛半黒潮に明く日本精神は  
且その声はリ遠ゆす後季の潮程に開えらるゝ。  
皆呼東方漸く白け天星、吾等仰かん! 三の大和ル立、吾輩  
北神の空に木響す黒潮の高鳴を聞く 次てルールの一角に  
来て一声高き吼る音あります。

## 佛教会隆昌時代

身を捨て  
族精神  
うしれん  
が換たはえ  
多一若に  
が身  
されろ前  
の方面の葬式年忌の供教師か出張して墳のものは会員の手がつた

の葬儀はすばらしく毛利開教師看仕の四年一九四三年の  
年忌法事を営んだが二八件で葬式八件結婚は僅に一件  
一九三六年度は法事八三件葬式三件結婚七件となり  
一九三八年には法事は法事は二〇四件葬式八件結婚六件となる  
亡事法事の件数は個人かつてたけに各会團併又は他  
個人事例は相当地方が三大法事を営んでも会員の懇心を加  
見えない依てか孝経需要は会費と個人並に各会特別事例  
銀の器は佛事まかねはまわ大葬式結婚式の記念事例又は会場  
傳科は大体一袋の額とちうてあるが法事懇心は必ず一定かれて  
ト勵んで

神社仕事  
には  
もあり  
代會長とし  
才吉田代子  
長として  
佛教会  
部やみ  
と資金  
は佛教会

。演説ライセンスか一應認可されたスクーリングの日系人口は二千五百相當  
減少されてゐる況下教知武道演者熟達同併三十一年更上り  
一九三四九年一月間でステラント日本人口一九三七年日本生九七四七人  
カナダ生九二五)二八二人日本生業(職業)をもつてゐる者は男五十五名  
女二名亦に依て見きと残る一四二人は扶養家族となることになる  
三娘妻者年男女が結婚適龄期に達してゐるか前述の如  
く結婚數の少なが職業の安定かないことによる程度が多い  
六ヵ月の家庭はステラント統一日本演劇團体の下で  
公立学校劇場宣伝語学校、幼稚園を経営して経済的には重圧  
を受けるを覺えながらも孝経需要は斯く大きな努力をなしてゐる  
このことは二十九人の人造は漢の信仰心は生きてゐるが、二十九歳の

時代を生き抜いた者と思ふ佛の慈悲と信仰を手近に感ふ  
世界佛縁を求めてゐたことを現実にあらはしてみる又開教師の  
崇高なる努力は信頼する所によく有りておもろい波戸辰松  
眞砂清七、吉口勝水郎、端代の内陣佛が殉教的奉仕をしてゐる  
こと、二三際述記しあぐ。

一九三八年二月毛利開教師帰國すと及んで 桜井開教師

片津敏丈文喜を迎えたのが今月であつた

片津開教師は医薬をとるかねはよく昔年を亦度した自由  
創造工房と名小肩者をもつてスラブトの創造部の会員となり  
道場に出でて力大しおまや佛教信者の道場と見て、広くに安く  
使用された。一九四一年十二月八日日本が戦争に参加するに至って  
佛教会の機能は七度三日系同胞は三年半沿岸百哩の島礁や  
遠くカナダ東部へ移り勧させられた 片津開教師 天主は  
レーベンツリーネ（アルバニ）に御本尊と共に移動した（市野山三郎著）

### 戰後の佛教会

一九四一年六月八日日本が第二次大戦に突入した為不景気による在住の日本人  
はその日から潔身と方正生業を棄て、一九四五年春から始まつた  
沿岸立退き全般撤て人残らず、この間から奥地や東部カナダに  
移動されてしまつた。數年が経過して再び沿岸復帰が許されたり  
一九四九年にはステンレストン佛教会が解散された。其間で  
二回記録はない。

一九四九年にステンレストンに帰つて潔身に從事した人達は少數で  
多くが復讐は相手を見出かれており、同年冬に相手にて帰つた人

が最も多く

司馬平  
前田徳  
田中仁之  
上山鶴一  
フジワラタク  
三日月

寺川勝  
司馬平

一九五二年

司馬平

寺川勝

前田徳

田中仁之

上山鶴一

フジワラタク

三日月

寺川勝

威ト

多々す。一九五一年相手を數とす。のた而し元の古集に帰つ  
たがそこには以前の自分達の家となく佛教会堂七カストアレ

ノ底松

をしてハリ。彼等は先不漁船を貰ふか建造せなけれはならず、又住するに

家屋を購入せなければ從来のロイキナリハウスに住居るには通じ

教師

大自家ト  
高家サナイ空家セマキタ。彼等は之れに対處するに充分な金を

余る

タウンが広野二角の百姓田地にて賃借を收入しかねイ多々の家族、

食費と算り

持之師不果とは必ずしも云へば、移動以来十年住ハレニラはづрост  
を抱え、戦前法事に依て貯め、食ひ盡してあたかナル。

久く心安く

彼は相應し相接り、慈光の下慈く布施、精心して漁業の順

運り奥地也

備した革を多時、夜に至る甚陳苦。佛教会設立の氣運は

今更は

ニシレた心と人の結晶たるモリエテ未だある。彼等は相應り相接り

三脚譲

一九五三年一月二十七日ステラストレーワード、クロスホールに於て生日開教師

司式下に報恩講がおこなわれ、參詣者男女セ合計五十餘名

とおもて、後で佛教会再開の詔令が宣せられ、協議の結果、佛教会

を再会しまして、お小こになり、村上浅松、深出一二、森下景吉、

始生友

前田徳太郎、峰山鶴太郎、庭月耕平、峰山福松、谷口盛次

等

田中仁左、堀前信文、白川喜一郎、西井吉之助、肥後有吉

等

サ勤也

て歸る人

云々が致、初代役員となぞる。

会長森下永吉 副会長庭月野廣吉 軒亭堂前信大  
第十五

会補佐西片吉次 誠長田中仁之副 請出三  
阿田不並

会計 村上浅松、久喜山、熊太郎

監査役谷上盛次

肥後万吉

内陣係足田民藏、皆神勝次郎、園野秀雄

身大介

女詫人第一区

秋日佐信、阿久根成芳、宮崎武雄、小林源吾

身大介

正田武男

上山惣市、堂前信文、堂前豊吉、堀正一

身大介

浜野正治

第十三区 西片寅吉、豊田好治、坂田英一

身大介

三木藤七

松村清太郎

身大介

今井藤七

下美、嬉子裏子

身大介

スティーブン・レッドロスボルト

於御門主御親修で信徒一員は

身大介

先者追悼法要を當り又とて其の悔法縁に会ひ

二日を記念して

身大介

併設婦人会が再開是レ

身大介

身大介

一九五三年一月十八日第一回定期總会があり

会則、制定、役員、改選

身大介

選舉會費、嗜欲、日暮開始、協議、佛教會堂、必要と

扇底、之を研究する。先づ会則から記述して見る。

身大介

ステファン・佛教會々則

身大介

身大介

第一条 本会をステファン・佛教會と稱す。

身大介

身大介

第二条 本会はステファン一般地方の佛教信徒をも組織す。

身大介

身大介

第三条 本会の本部は佛教會堂事務所に置く

身大介

身大介

第四条 本会は信義相立の親睦を謀り、博く佛陀の精神を

身大介

身大介

兜め平和社會建設と人類調和の実を達するを

身大介

身大介

以て目的とす

前信大

第五条

本会は毎月一回の定期説教を恒例とす。

其事

尚宗祖の降誕祭典其の他の佛事供養を  
嚴修の事、但漢繁忙期中は説教中止

次

秀雄

寺大奈 本会は時代の趨勢に鑑み冠婚葬祭を特に

林源吾

貿易を旨とする。

野原雄

寺太郎 本会に左の役員を置く

正一

会長一名 副会長、幹事会補佐二名

火一

議長、副議長 会計三名 監査役四名

再陣係（五名） 各区に四名以上、各區に四名

を置きレ

仁一月は

（例年一月と修正）正月会を正月会と改む

久して

役員の改選では前年度と大異なら、会費は一家族單位一席と

外、役員の

（本年以降）二席従事者、役員会では会則第6条を

久の必要と

うとする事が最も特異な事である。即ち

久

会則第6條、寺太郎は、その細則、寺太郎は、出来事に限り

経費節約に意見一致して、会員外に不享元奇れる場合には

香奠として会員うち二席宛て其金を遣族に贈る事。

久

其金方柄は送信者より受持会員より其金する。二件は会員

久もって繰織す。

会員が其の金を贈る事。

久

相立信後から享元奇り今日未だ他佛教会では見られないもつ

として一般が好んで好んで之を用ひる事。

為に在留民を總括する市民協会が金水大井川、全花崗石に

作成する事

あとはまろより実行されることを相談決定すと存記してゐる。

### 佛教会堂の話 聽道 12 東 3.

一九五二年十月十八日、是時總會に於て本林下會長が提示された

佛教会堂建設の必要を痛感し、役員はさう後研究を重ねて方針

定められ、元佛教会堂賣却金は戦争中並に裁撤に至って

當組人の手守に在つた。依て先下當組人岸喜平次(カスケード在住)

新出林立助(リンドウ)と新出林立助東村佛教会幹部と會見して

新出林立助(リンドウ)に書面を送つて意向を問合せた

是月廿四日當組人新出林立助東村佛教会幹部と會見して

須知柳恩佛教会堂建設計画に賛成されると共に建築費置金廿万

迦首書を新聞に寄稿すれば旧佛教会堂賣却金は多分

當佛教会に寄贈されるのであらうとの承諾を得た。而しその以前に

岸氏を訪ねて同意を得てよく必要あると認めた。二つ事務所

元佛教会員は現在日本では広く力ナク各地に散在住居してあり

それを掌り地区ト於て山なり仲間を威勢よく佛教会堂建立を

希望する折りであらうて當組人としての責任上旧会員の圖可

能感としての折りであらうて當組人としての責任上旧会員の圖可

舊了解せしに經卒トニの全は夏視解決ではないものとして

方針からである。

一方新会堂を建築するにしても敷地購入建築資材と多額の

金が要求される。現れの会員に會員ではこう敗算を承ることは至難

とされ若岸は克々續いた。これは旧幼稚園の購入ト手を入れたが

所有主は百二十坪と方小高價を價格を示してゐた。之を買取る

佛教会堂として改造すれば相当高いものとなり會員へ寄附だけでは

まかない。即ち貯金依て再三不立を因会堂賣却金更入水方を交渉

してあるが仲々計らひ、或時は新都は岸氏遠くカスケード

に向て交渉し耶寧新聞には旧会員の善意ある了解を

一九五八年

永井大

在留印

也を受

て方主

モドリ

銀行

モドリ

初稚園

西芝右

の支援を

の段昊会

備

か否

でな、ニ

佛教会

オカナガソ

ニシル

モジタ

永生堂 こうして <sup>旧</sup>会堂賣却金 優渡しの要請は一般各地  
在留日僑民の了解を得て監督人より八千四百九十七東七十三仙  
を重ねてわざ  
假に立つて  
カスケード旅館  
向合せた  
見いて  
金甚榮  
は当然  
との次前  
の事情は  
店してあり  
足立  
景の圓滿  
として  
佛教会再開会時 <sup>ト</sup>活潑を観るに金田真成師は  
オガナカン地区に住居されて <sup>シテ</sup> 一教区開設師として當地に住  
多額の  
とは至難  
入れなか  
之を買取り  
ア附たけでは  
前方を支撑  
逃くカスケード  
了解を

也を受取ることは八年七月十九日の役員会席上で報告され  
て乃きこの金を受取るに遅に旧幼稚園は購入されてゐたが  
その持込期毎に新部は金若干を若心し新部係証にて一時的に  
銀行引借へしようとしたり、又は一新部道金を借用させていた  
うやうめ。

幼稚園を改進して会堂とし使用斧足しなづかそりの五年  
一九五四年の春でみてこう間新部は簡貧倉暮集の爲束奪  
西走右へ寄附金を求めて歩き回つたベシテハため各他方有志  
の支援を蒙承するがこの眞僕全返済は二年後の一月二三日  
の授業金で全額持込を済すことを決済してあり会堂外又外の剣  
備船を手本とし三十尺記載してゐる。一つ事業完成は仲々容易  
でないことを知りか。

佛教会再開会時 <sup>ト</sup> 活潑を観るに金田真成師は  
オガナカン地区に住居されて <sup>シテ</sup> 一教区開設師として當地に住  
多額の  
ことは至難  
と物心共に御準備されてある。

一九五五年三月二十三日佛教会再開五周年記念祝賀法要が  
勤行され三月二日は先哲首邊博士法要を當日本佛教会創立  
以來の功業者橋本食之助 深出伊三助 山本平三郎  
防田木常松 中津直次郎の香料を贈り靈臺を慰めた  
了

公用教師はハーバー・ストラッサーの開教師として  
就任された。

新佛敎會堂達摩

新設会堂建築の件が議題とすれどか一九五八年の四月總会に於て本部下会長が再び癡言されたことに依る。現在に於ては甚だ無理反対であるが三年五年の目標計画を立て、暫時追跡する用意が必要であつて提案された。旧幼稚園改造場の会堂は青年会日曜学校の役立、又は会員の葬式等には狭隘を感じて不快特に青年会の会堂拡大需要も強く現在の会堂を増築するか新たに会堂建築するかに就つて、依つて会堂が一應負擔がある事大後は該年度後半は後年を考慮して特別積立金

全年十二月には二十九は核算の具体化にて庭田野戸吉  
酒井市、猪木、氏等六戸別当門を以て先づ起旨説明傳達  
資金募集中に當り、それより結果五千四百九十四円の立替金が  
集まつた之を特別会計として翌年の定期總會に承認され、於て  
建築研究委員会が設立し、予算、敷地購入等を研究された  
結果、橋本万吉雄前川徳太郎成利定水郎庭田野戸吉

一九五九年度庭田野会長就任と相俟つて二の庄内会今は活潑な活動を起し各会員ことに研究報告を行ひ役員の意向を聞きそろそろ今年五月の役員会で資金募集について今後は毎年七十五万円三十年に亘り納入することと高一般団体志士家有志を募りして援助を乞ふ事に従事する

待てぬ  
立薄えと  
其の後  
ナニシカ  
土地を指  
時價一  
前半先  
建築業の  
つともよ  
併設化の  
敷地の

として  
さることを決議した 続いて佛教会附屬団体を含めた合同  
委員会も催して建築研究委員会のこれ迄の報告を聞き  
付誠志大二回派の立派は「現れの會堂を台上に立てたまく  
徳倉ト後

西側に増築する」と言ふことに満足して次期總會に新部昇不として  
無記載

### 一般會員は提示する

一九六〇年度會長酒井末市 二年半の總會は右新部昇不  
年会 上提出されて増築事業可決され、會費は毎年十二月三十日四十二邦を  
支取  
納入し六ヶ月計出事業とすと修了され之れが割合數  
算定するか  
債がなく  
別積立金  
故現社の場所に近接する西側の土地を購入し増築するにはリツケモト  
市会の承認許可が必要である。ニイ地区は商業地帶指定地と定位  
され方々關係上 新に増築するには容易に許されない  
而かも目的の賣地をする西側土地はその優秀なと判明し久敷く  
待天市會の回収金を不許可の五事である 増築事業はここに  
立消えとなつたと得ない、

附金加  
附金加  
附金加  
附金加  
附金加  
附金加

其の後新部俊男が適当な場所を探求してみたが仲々決定  
する事が困難であった途余曲折ようやく現地會堂が建れ此後  
八月野芦若  
時價一丁七千円五英町條とすとある  
日落澤川  
人向き  
之令是は  
志家  
と展開。

新橋先駆晚香改に住居してゐる ペットドウル氏が東洋式  
建築の造詣深く東京にて長く滞在して日本の神社佛閣に  
つてもよく研究を進めて來てゐるが開基新部は二人を率いて  
佛教會堂建築の構想を語り意見を承りてゐた  
敷地の決定は依て新に新部俊男共に莫効當氣持つ

## 建築委

企画部

資金部

宣傳部

書記

一 会堂建立に一路立ち上ることには至らず  
 布教會役員は毎年更代改選され建築事業業者に關して企画の  
 一定性を欲すと共に又会務の進行に依る影響する事にてあるので  
 建築業に対する特別機關の必要性を認めて之大  
 九十九年二月是時總會の承認を得て建築委員會を組織し  
 韓都は直下二千金の運営規約を作制表して重ねて監督は總會を  
 相集して之を可成りして達成率委員會の登場を見ること無づ  
 施設・ステーション・佛教會堂建築委員會と題約  
 一名稱 施設・ステーション・佛教會堂建築委員會と稱す。  
 二目的 会堂建築の促進達成を期す。  
 三委員選出方法  
 本委員会委員は總會に於て十名を選出し又各選出する  
 一辰寃の委員を選出する  
 四委員任期  
 本会委員は会堂建築完成まで連續委員たること。  
 五役員 本会にたつ役員を置く  
 委員長一名、副委員長一名、会計一名、監査役三名  
 六委員の役職  
 委員長は委員會を統轄す。  
 副委員長は企画部長とす。外に宣傳部長  
 会計は資金部長とす。  
 以下總會に選出委員は右三つの部にあって部員  
 と有り。

27

29

TANZAWA

建築委員長 酒井栄市

企画部長 稲本万喜雄 (副委員長)  
三役と稱す

資金部長 豊田好信 (会計)

書記 不村耕吉

宣傳部長 西井吉次

監査役 宮崎武夫、浜出博、小山福次郎

至多

企画部員 阿久根寅市、向井精四、阿田不羣、上山鶴市

阿久根口一、近藤保

資金部員 斎井一二、幸村徳太郎、田中仁之

岡野秀男、斎井克義、村上謙松

又名正子

宣傳部員 堂前信史、斎井芳春、船本裁田

大坂文次、野村正男、西正男

以上二十六名

六月三日

茲に建築委員会の陣容として三月首初めの建築委員会が

開かれ、從來の佛教会特別会<sup>講</sup>事務は大坂文次より資金部会計

担当田好信に引継ぎされた。この時の資金は一六二弔二四仙と

算てゐる。建築委員長酒井栄市就任挨拶の中には建築計画

、総理などを述べ、今後は從來の会員積立六分出し資金を

基本として尚之上に会員の特別手約又は一時寄附を頼むとする

佛教会附屬団体とも協力をしてやうが、一般特志家並に建築

会社等大々的に寄附運動を展開する。これらに依れば必ず此の

將來に於て会員建築業者への賛助印の見通しかあると言明した

その様ニ建築委員会会合を重ねることに建築委員会計画及

六月 建築費を立てたる。即ち 会員六ヶ年積立金、特別市内  
佛教会、並に婦人会の経常費 摂越金の一部 摂入小青年会、  
音楽、演藝会 ラブルテケツ、建築、ビンゴ映画等の催しに依る  
利鉢金、そして若干実行に移してから、尚早期建築をすす  
め合はる日銀行一時借入金はつゞく所へられた

當時は今も同上称に年々物價加上昇すばかりであつた会堂  
建築もこゝに影ぬきをうりて年月を経過するにあて、予算の  
喰ひ切らざりを生じてくるも心配を得ない、建築委員会はこうした  
ことを考慮に入れてみたので建築するをう一日も早く方かよ。

銀行利子位の差でなく、割り切り銀行と交渉して借出しが交渉  
了解を得てゐた

一方建宗技術ル依る設計による意見の相異十萬石が高まつ  
熱意と理解で解消し ヘトロリ技術の建築構造設計

事と承認一致を見たる所

和三九六年二月には鍼入式(地鎮祭)が行れた。今年八月の  
入札の結果タクボウ・ゲン建築会社が落札、設計ル依る工費  
八六・三九八千円と定めて契約書をさしかねた。建築は早秋九月予  
起工事年次に亘りて大体の竣工を遂げた。却ニ工費の外に  
敷地料の備、等多額の支出を必要しなつて、全年十一月十一日、兩名  
二万円の銀行借入れをほしておき、以下会堂建築費資金の  
收支を記しておき又、毎日の参考とす。

收入	12/10/24
	43,731.29.

年月日  
1962.3.7. 従來の特別会計収入度  
1963.3.1. 会員割引金会員料開高源

年月日	收 入	支 出
1962.3.7. 従来の特別会員加入金	12101.24.	
1963.該中 会員割合金、会員特別寄附 一般会員寄附金、仲説会並川取会よりの收入金	43.731.29.	
1963.10.12. 銀行借入金	26,100.00	
1963.該中 支出額(建築費、敷地整備費) 其の他		69439.87
1964.亥. 銀行借入金 会員割合金 特別寄附、建築資金623 各種事業	24,000.00 23,519.09	
1964.亥 支出額(建築費、人件料賃等加算) 其の他、支出		51,727.87.
1965.亥 会員割合金、特別寄附 其の他の収入	20019.02	
1965.亥 支出額(銀行掛戻し金、 建築費、敷地整備費其の他) ガーラン、ハロコロフト		13,000.00 9,427.38.
1966.亥 一般会員寄附、会員割合金、特別寄附 支出 銀行掛戻し金 <del>支出</del> (預金利息)	19498.08	19,000.00. 907.63.
	162,878.72.	
		163,503.81

31

新裝修たる佛教会堂への入佛式

落成祝賀慶讚法要と先亡者追悼法要

新築会堂への入佛式は一九六四年二月二十三日午後一時半より  
参詣客四百五十名 特招講師としてオカザケン駐在開教使  
奥田師各佛教会代表各檀因併代表の列席を仰いで  
盛大に挙式され大夜はコニシヤンダード祝賀演説会を  
催してある。

翌一九六五年三月六日午後先亡者追悼法要と落成祝賀

慶讚法要が最修され大

即ち六日午後三時から先亡者追悼法要には佛教会設立当時  
非常な困難に堪へ今日の礎石を造つてくれた多くの歴人となつてゐる  
方々に際し感謝すと共に特に御歓喜を致阿田不常松

政清出師之助大院号がさすけられた

追悼法要司倉庫の挨拶を記述しておき。

司倉の挨拶

錦旗支物

長、歲月以迄て皆様方の絶大なる配慮と御盡力に感謝いた  
事佛教会堂は昨年夏より工事を起し年未だに完成に竣工

を基づく昨年四月春には外佛塔モ木の塔モ雅しき本堂に

創建され早速改められ在所ます。愈々明日春陽さんと

運び裏外在天氣の下で佛教会堂落成慶賀法要が當  
あれることは有りました。当日はヤマト・アメリカ西北部全般が  
開教使や大せいかまだ教員又はこうお寺建立のそば援助

を来た方々がお詣りして下さることに有つてます。初共スティグストレ

佛教会又は佛教信徒として後日も先にもないこうして目出度ハ

縁無人

新装ほどの

法要を後

カドナに於て

小此北大

もとヨリ

まちかへる

がその時代に

努力を盡す

設持につと

め小手の方

今日この会

して其は多

自人社界

日暮してあ

ニミズノイ

の念がわ

ひ嚴肅

朝の朝

本

天氣

四月

佛教旗

## 法要

新井はこの日出で、成法要を前日に控え、こゝに失毛石追悔  
懺一時半より、誓願を説教させた後、こゝに布施ました。新井は今日からアメリカ  
駐在開教使 カテチに於てもう簡單に見えたが、と方小東洋木建築方本をどう  
仰りて、 それが能大優美を如くに毎一万指で見る事に至りました。云ふは  
久演藝会を もとより新井信長一人が努力因縁してお蔭であることは  
名ニ成成祝賀 まちかへぬうさんか翻を思ひます時、新井の先輩祖父母而祝  
致会設立為時 誓持つて、今日にもう繰りて下さるお蔭であります  
故人となえろ その手の方達は遂に故人となれ幽明界を冥にされであります。新井は  
田木常吉 今日これら金堂にそそ方々をお迎え申して、新井今日のこゝ毒いを内報告  
して共に喜んでいいのであります。今日、新井の生誕は十早や  
白人化粧者の人達排斥もなく誠に惜々とした、萬葉の正統得て  
復光之助。 日暮れであります。ニキチ初夏生活の基礎を第上りて下さった  
富士山底ました ことを思ひます時、新井は心より先輩祖父母而親に神しては恩の報附  
は立派に復工の念がわざとろつてあります。今後の追悔法要はこうした氣持  
の本當に で嚴肅におつとめさせてもらいたいと思ひます。金剛寺  
いさんくと

## 法要が當

可全般から、 春の朝霧はやく晴れて度、法要は惠まれたのか好  
きほ援助 天候 本堂附近は朝から人出で、贋小雅児行列は午前一時  
新井ステアスドレ 四五分前より代光寺よりやりました豪華隊と先頭にカトリック  
うして目出立つ 佛教旗導師 開教使 祖先 金堂建築委員長

佛敎会役員特別会員(老駄老)婦人会青年会代表各会代表の淨、賤を立  
末廣石一般参考者、順序、会堂前廊に到れば、生田実成、北村伊敷、  
圓教俊先達し元会長森下永吉、会堂廊のテラスから印小太郎、伊藤壇は  
深井元老村上成松建築部長酒井市元会長庭日野、若狭徳勝である。  
防久根會長掌帳入場す。

正十二時参考者一同着席、奏樂既新、赤子、舉式移、大谷光瑞所

司令官宣誓、司式、挾持あり、讀經各代表者の壇石、佛像は白首

リコモント区長日本国總領事、メセジー、代表者、祝辭。

本願寺門主メセジー、生田圓教俊の挾持、シアル佛敎会、生田実成と  
開教所又保田の吳謹、依、慶祝説教、平野北米佛敎花山

總長の説教、建築部長酒井市、建築経過報告。

平の順序と併せ佛敎会、長防久根、市、謝禮の言葉が

あって滿堂でわざ盛り、有難い言葉は用武さへ、式後夕食の

接待記念品として、香附、赤白方舟を一般参考者に配布した。

二日懇親会は建築会計回した。

新会堂建築式徐々に就いて、参考者より記念品贈るなど、皆婦人会

引手の興味は、足りて、コロナード在住者不材豊松久クニ幸喜

春の花祭

手元贈り水火、赤穂一大は船橋山樂天、懐中之鏡の光明寺から、会員は正合

香炉香箱一对は今じく三花の法言堂(淨土宗)、懐中之鏡の見本

右に年々山

名入りカサと稱するには有名やあらか、宝は財物の大多數ばかり、たる、今更更

に移住してあり、ステラストンに集結して、深井は從事し、今日簡

多くは人か是住して、ここは重宝であり、ステラストンは三尾人、免職され

昇る政府と見て、今がト約四十年位以前光明寺改築の時

佛敎会の

は三尾林人会(京都ステラストン)は中止と見て在住林氏ル呼いかれ多額  
佛敎会

会代表各会代表の淨賛を寄贈してゐる位で三歳ヒステリックの鑑故が深く  
生田真成現在佛教会堂に安置される佛壇はえも書いておく  
かくやうなまことに佛壇は一九五八年先田真成師誕生日が日午と佛門に入時支度の  
長庭月野の唐徳師である。田中トシ子さんから奈良市住居未定支度を宣毛と云ふ  
寺宇式移大谷光瑞師が大遠を詣れた時はお詫びしてくれましたと云ふ  
萬州圓心院大遠の庵を拝しお詫びしてある。前門主

代表者の焼石 佛像は白檀と堅木で造られたるゆかりのあつた佛像であつた  
祝辞 シアトル佛教会 生田夫妻との出会いでスティーブン・J・佛教師人会が買ひうけることになつた  
本佛放花山

記録には日本から来り年月はほゞりしから一九六〇年十一月二十六日  
経過報告 徒歩会が佛壇馬鹿の件として協議され、同年二月廿六日  
附禮の言葉が親鸞上人七百回忌大法要が嚴修された時龍谷大学教授  
式飯夕食の際原原陵聖師が特別講師として講話をされ佛教会  
布告紙布した。は佛壇献納亦ミサリテ婦人会より上げられたことによつて  
春の花祭の花見堂が開設使用の備品ケツケン用具<sup>金器</sup>之  
内賛金<sup>金器</sup>も付加されたり。皆婦人会が活躍して寄贈されたのである。

星松久ニ主事 現在ハスティン・J・佛教会、永谷孝昭開教使

院の光明本院、会員は正会員と特別会員とであり、正会員は佛教会の経営をすすめ  
著述等の貢献者に年々一定額の金を会費を納入し送呈禮、被選舉薦薦を有して  
大多數が力不足、然し今度更に八名(元六名)特別会員は四名、湖七十方を  
えみ、今日開 旗の立派な生徒六十二名にレバ收入のない所で今後努力頃坦々  
ハドンは三尾人り 完成されん

明末改築の時 佛教会の運営は会費、特別寄附、佛壇、懲罰その他  
伊波令で僅ま諸種の事務を依存傳習して来たが如き





期三月二日

東北事

鐵道會

五日

新嘉坡

六日

新嘉坡

七日

新嘉坡

八日

新嘉坡

九日

新嘉坡

十日

新嘉坡

十一日

新嘉坡

十二日

新嘉坡

十三日

新嘉坡

十四日

新嘉坡

38



TANZ04

能一處見之也。

一月二十一日

大之次者，其聲與主氣流之統人也。

此曰是謂之圓周也。

大運數三十萬萬數百萬萬數千萬萬數十萬萬數一萬萬數

一萬。運數一萬。

一月二十二日

庚子次日，有風雨，其氣流之運數三十萬萬數百萬萬數千萬萬數十萬萬數一萬萬數

一萬。運數一萬。其氣流之運數三十萬萬數百萬萬數千萬萬數十萬萬數一萬萬數

一萬。運數一萬。其氣流之運數三十萬萬數百萬萬數千萬萬數十萬萬數一萬萬數

一萬。運數一萬。其氣流之運數三十萬萬數百萬萬數千萬萬數十萬萬數一萬萬數

一萬。運數一萬。其氣流之運數三十萬萬數百萬萬數千萬萬數十萬萬數一萬萬數

一萬。運數一萬。其氣流之運數三十萬萬數百萬萬數千萬萬數十萬萬數一萬萬數

一萬。運數一萬。其氣流之運數三十萬萬數百萬萬數千萬萬數十萬萬數一萬萬數

一萬。運數一萬。其氣流之運數三十萬萬數百萬萬數千萬萬數十萬萬數一萬萬數

一萬。運數一萬。其氣流之運數三十萬萬數百萬萬數千萬萬數十萬萬數一萬萬數